

◆「人権に関する市民意識調査報告書」について

瑞浪市人権施策推進審議会委員の意見・感想等まとめ

項目	感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
1 人権全般について	問5、男性で「人権の名のもとに権利の濫用が見られるので、むしろ制限すべきだ」と回答した人の割合が女性より多いのは、まだまだ男女共同参画の趣旨が受け入れられないということでしょうか？	一人で悩まず、いろいろな相談窓口があるので、勇気を出して相談してほしいです。
	問6 各分野ごとの人権問題への関心度について／同和問題、アイヌの人々の人権について、「全く関心がない」「あまり関心がない」人が多いのに驚かされる。	
	問9 人権侵害を受けた際の対応について／人権侵害を受けて身近な人に相談する、相手に抗議をする、黙って我慢をする…それで事が収まればいいが、そうでない場合、その先に公的機関を思い浮かべる。警察や弁護士への相談は敷居が高い。そうなると市役所の役割は大きいと思う。手に取りやすいのは電話。しかし、その先は、どこにつながるかが分からない。つながったとしても、じゃあ〇〇へ相談してください等、たらい回しにならないか不安。そうなると、結局時間が経って気持ちが薄れていったり、あきらめてしまったりすることを懸念する。	
	回答者の割合が、男女・年齢別に差がなくて良かったです。	
	年齢層別無作為抽出1,000人とありますが、各年齢層の振り分け割合はどれくらいでしょうか？女性・子ども・高齢者等、身近な問題とそうでない問題とのギャップが大きいのは仕方のないことなのでしょうか？	
	各分野の人権問題について「特に問題があると思うのはどのようなことですか。」の問いに「分からない」と答えた方の割合に注目してみると、②女性③子ども④高齢は少なく、⑦同和⑧アイヌはとても高いことが分かりました。どうしたらよいか、どう接したらよいか分からないためなののでしょうか。他（障がい、インターネット、外国人、犯罪者、性等）は10%～20%台、私もその中の1人だと思いました。	
	P30～38の質問は、すべて「差別された側」へのものです。差別してしまった側のことは分かりません。「差別する気持ちがある。」「知らないうちに差別しているかも。」「差別したことがある。」等、どのくらいの人があるのでしょうか？意識調査なので聞くことができないのでしょうか？	
	人権問題の項目中、子どもの人権問題の興味関心が一番高いことを知った。テレビ等で虐待報道等が多く取り上げられることもあってか、今の時代を反映していると感じた。	指針から行動計画を見る方法、事業内容としてわかりやすく1冊になることを期待したいです。
子どもの人権に関する関心が最も高いことに、教育関係者としてとてもありがたく思った。地域社会が子どもに関心を持つことは大切なことと思います。		

項目		感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
1	人権全般について	予想していたより、人権についての関心度が高いことは驚いた。社会全般に人権が尊重されるべきであることが浸透しているし、推進されている結果であると思う。	
		どの項目を見ても、60歳、70歳台の男女は20%～50%位の関心を持っていると思った。思っていることはしっかり自覚を持ってほしい。	
		関心が高まる問題は、その時の世の中の事件や報道に影響されるのだと思った。社会問題を通して、改めて人権問題について考えることができる社会になると良いと感じた。	
2	女性の人権について	問12 女性の人権を守るために必要なことについて／セクハラ・マタハラ・DVは法的に処罰されることを広く知らしめる必要があると思う。それには相談しやすい窓口とはどういうものなのか、どこか連携できることはないかを考えることが重要。現実、相談されず、埋もれてしまっていることもあるのではないかと思う。他の項目については双方の話し合い、努力、歩み寄り、また世論や社会の盛り上がりにより、変化の可能性があるのでないかと思う。	
		問12 女性の人権を守るために必要なことについて／「男女が共に家庭生活や地域活動に携われるような社会づくりを推進する」について、26年度と比べると減少しているのが気になる。	
		自由意見（P101）での30歳代男性の意見「公的な調査で男性差別が無いことが前提で話が進むこと自体、あからさまな男性差別。」、確かにそうだなと思いました。男性の人権も大切ですね。聞きたいです。	
		年代別で20歳代のみが、他の年代と1、2位が逆転しているのが意外でした。	仕事と家庭生活の両立が容易になるような就労環境の整備を図ることがみんなの希望ですので、少しずつ進めていってほしいです。
		豊田市の三つ子事件が思い浮かびました。新聞には「なぜ実刑、子育て支援策はズいぶん進んだはずなのに、男女共同参画とか女性活動とか言われるようになったのに、三歳児神話も母性神話も払拭されていません」とありました。アンケート結果から「家事や育児、介護などを男女が共に担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと」（P39）の割合が最も高く、やはり多くの人々が問題だと思って見えることが分かりました。	
		年齢別回答で20歳代が「「男は仕事、女は家庭」など、性別による固定的な役割分担意識があること」をトップにしているのに驚きました。そういう熟年者がまだまだ多いと思われているということでしょうか？	実際に女性が活躍されている場面がどういったものがあるのかを問にしてみたら。
		人権尊重への関心が高い割に、まだまだ女性への固定観念や待遇差別など、具体的な質問の中で多いことが分かった。	
		近頃では男性も家事・育児を、と聞く。女性は同じように働くとしたら、覚悟をもって仕事にあたってほしい。	育児・家事は大変ですが、いやいやするのでなく、気持ちよくやった方が喜ばれますよ。

項目		感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
2	女性の人権について	女性の社会参加は進んでいるとはいえ、根深い差別意識や不平等なことがあると思う。	具体的にどんなことが差別にあたるのか、理解できていないことが社会的に多いので、問題を整理して啓発できると良い。
		女性の地位を向上（例：賃金、昇進等）。明治時代の男尊女卑の流れが払拭されていない感が見受けられる。	向上させるために役所から改革を！男女平等の教育。
		会社・地域において、男女ともに仕事・家庭の両立を進める必要があると感じました。	男女ともに産休・育休などをより活用できる仕組みづくり。
3	子どもの人権について	問13 子どもの人権について問題があると思うこと／「暴力や育児放棄など、子どもを虐待すること」についての関心度が高くなっていることが、良いことである。	
		問14 子どもの人権を守るために必要なことについて／人との関わりが急激に増す保・幼・小・中の集団生活、そのスタートから、人権を大切にされる日々を体験することが重要だと思う。そのためには、そこに関わる職員が、教えるのではなく、その言動自体、常に人権を大切にすることを意識して日々接し、生活することが根本だと思う。（例えば、～しないと〇〇させない等の上意下達や古い校則の見直し、失敗を受け入れ失敗から学ぶ姿勢、生徒にとって相談しやすい関係づくり、教職員の資質の向上・研修等。）	
		女性問題と切り離せないと思っています。子どもに虐待しそうなとき、どこに、誰に、相談するのでしょうか？本人が一番悩み、止めたいと思っているはずだし、そう願います。私自身も育児ノイローゼだった時、近くのかかりつけ医に話をしました。最初は子どもに問題があると思っていたからです。しかし話をするうち、問題は私にあるのだと気づきました。黙ってただただ聞いて下さった医師に今でも感謝しています。その時に言ってくださった言葉「それだけ子どものことを思ってる。それだけで充分立派な母親だよ。」に救われました。	
		子どものSOSを見抜けず、悲惨な結果を生んでいる事象が数多く報告されている現状が嘆かわしく思われます。学校・家庭・地域・行政が一丸となって、暴力・いじめ等々無くしていきたいですね。	問14「子どもの人権を守るために、どのようなことが必要か」の中に、地域のかかわり方のあり方を問う項目があっても良いのでは？相談しやすい行政の在り方を具体化し、指針としていただきたい。
		虐待への関心は深まっていることを感じた。	
		家庭内暴力、子どものいじめに一番関心を持った。親からの暴力で死亡したり、自殺に結びついたり。近くで聞いたりしたらその子を助けたい。	最近、親からの虐待で子どもが亡くなっている。そういう時は親と子を離して、子どもの命を守ってほしい。親が脅しても決して渡さないでほしい。脅されて渡した人にも責任があると思う。
		子どもへの虐待への関心が高まっており、世相を反映していると感じた。	家庭内の子どもの人権に関して意識を持つことが、生活の中では難しいため、家庭用に分かりやすい啓発をしてもらえると良い。

項目	感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
3 子どもの人権について	報告書と同感。	いじめ問題、虐待問題、心がとても痛みます。
	子どもの生活困窮から生活環境の劣悪化で虐待に進むケースは少なくない。そのことは子どもの人権を奪うものである。子どもの貧困問題も大きな問題となっている今、そのような項目があってもよいのでは…とも思う。	
	取り組みの意識の変化をととても感じた。26年度の調査においては保護者各家庭のしつけ、教育力が一番高かったのに対し、近年においては虐待防止に取り組む項目が一番高く、行政が担う比率が多いことがうかがわれる。	
	分析に記述されているように、子どもの人権を守り、よりよい成長を期待するためには、個人、家庭だけでなく、社会全体での取り組みが求められます。	今後、瑞浪市内の小中で取り組みが進む、学校のコミュニティースクール化が期待できます。
		20歳（契約の取り消しができなくなる）になったばかりの大人をターゲットにする投資・アルバイト詐欺が急増中。子どもを対象に注意を呼び掛けてほしい。
4 高齢者の人権について	いろいろ問題が多すぎるので、身近で相談できるよう、整備が必要。	
	「高齢者が安心して外出できるよう建物や公共交通機関の整備を促進する」ことが必要だと考える人の割合が多くなっていること（P52）、とてもよく分かります。瑞浪には日吉や陶、大湫等、不便な地域があり、私もその1人です。	
	高齢者が自立した生活が営めるような施策は大事だが、歳を重ねればやはり限度が出てくるし、他の人の手を借りなければならなくなる。そうすると、病院、介護施設の職員は本当に疲労困憊。頭の下がる思い。賃金・人員増など労働環境改善面にも目を向けていく必要があるのではないかと思う。また、物理的な対応も必要だが、高齢者の内面に対するケアはどうするか。（怒りっぽい、せっかち、不安、不満、落ち込みなど）	
	高齢化率は間違いなく上昇します。高齢者の安心・安全。特に日常の買い物・通院等の足の確保がさらに必要になるでしょうね。	施設入居待機者や老老介護を無くす施策を。
	高齢社会に対する行政的な整備が必要となってきたことを感じた。	
	悪徳商法について、テレビや新聞でよく見たりしているのに、引っかかるのはどうしてだろう。	高齢者を地区の公民館に集め、1～2週間に1回、1人200円～300円程度負担して、お茶会をしたらどうだろう。
	道路の段差はスロープがあるところが増えてきていると思う。	
高齢者となると、定年退職し生産年齢から外され、社会のつながりが突然無くなってしまう。また、身体の衰えを感じ、今後の人生に不安が生じてくる。このようなことから高齢者の意識調査は関心が高く出たのであろう。今は虐待や差別を受けていないが、病気・介護認定になった時は心配だ。高齢者対策・人権の啓発が必要であろう。	高齢者が健康維持や穏やかな気持ちを保てるよう公民館活動等によって家から引っ張り出し、ボランティア活動や就業等に結び付けてほしい。	
活躍の場を求める声の多さに驚きました。		

項目	感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
5 障がい者の 人権について	足の手術で2度、半年の不自由を味わいました。人は突然障がい者になってしまうことがあります。今まで全く気付かなかった不便さを知りました。車イス→松葉杖→つえ。その都度困りごとがありました。アンケート結果では「障がい者の生活上の不便などに関する人々の認識が欠けていること」が問題だと考える人が多く、回答された方々の理解と思いやりを感じました。また、人の優しさをその時たくさん感じたことも事実です。	
	学校あるいは福祉施設など入所・通所されている方は、人権侵害等の訴え等、専門家のアドバイスや他機関との連携を受ける機会もあるが、在宅や引きこもりの人にとっては、自分から外に向けての発信はしづらいと思う。そんなケースの方はさらにストレスを溜め込んでしまう。しかし把握しようにも個人情報の壁があり、把握しづらい面もあると思う。	
	自分自身も障がい者の方に対しては、少し距離を置き、身構えてしまいます。普通に接することが一番大事なんじゃないかな。	障がい者の方への接し方、支援（ヘルプ）の仕方等を具現化した指針・計画づくり。
	障がい者の人権は社会の中で守られていると思うが、それでも生活上の不便などに関する人々の認識が欠けているという割合が高いのには驚いた。	
	就労や福祉サービスは近年充実してきていることがうかがえる。	
	障がい者の外出については、駅、公共施設はスロープがある。相談については、窓口があり体制は整っているが、交流ができていないかどうかは分からない。就労については、社会保険があるかないかは分からないが、A型・B型の仕事施設あり。	「障害者デイサービスセンターさくら」（桜寿荘の隣）は障がい者が利用できる施設。広報でもっと発信したらどうか。
	就労や社会参加に関する取り組みは、地域差もあり、難しい問題だと感じる。	幼児期や学齢期と一緒に過ごしたり、関わる経験が多くあると、障がいのある人を身近に感じ、理解につながると思う。それが差別感の解消に結果的にはなっていくように感じる。
	報告書と同感。	
		学校における特別支援教育に対する期待が大きい。
6 インターネットによる 人権侵害について	問20 インターネットによる人権侵害について問題があると思うこと／「個人情報などが流出していること」については、過去の調査ごとに増加傾向にあることが時代の問題を表している。	
	インターネットを利用していないので分からないのですが、被害の話を聞くと怖いです。	
	インターネットについては何も知らず、怖さも分からない。「分からない」（P61）と答えられた70歳代24.3%（P61）、私もその1人です。今後はインターネットによる人権侵害が増えると思われ、回答の「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」を見て、改めて大事なことだと気づきました。	

項目	感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
6 インターネットによる人権侵害について	私にとってはよく使いこなせないこともあり、誰もがいつでも第三者を誹謗中傷できてしまう非常に怖いアイテムだと思います。	インターネット・SNS等々とうまく付き合っていく術を教育・啓発する必要があります。
	一度インターネットに載ると広まってしまうことを分かっているのだろうか？人を傷つけることもあるから気を付けてほしい。	
	学校においては、年数回の子ども対象の勉強会（研修）と保護者対象の研修を実施しています。が、無くならないことを心配しています。さらに充実したいと思います。	
	インスタグラム、YouTube等により、個人情報流出は今後も増加してくると思われる。それに加え、低年齢化の問題も現状としてあるので調査の必要性を感じる。実際、SNS利用を起因とした女性問題（被害）に対応しており、インターネットの人権問題は多岐にわたるため難しいと感じている。	
	<知識不足>PC用語・操作未熟。	
		ネット上の悪口は基本的にバレるということを周知させてほしい。
7 同和問題について	問22 同和問題についてどう考えるか／同和問題については、過去の調査結果と比較すると「わからない」が増加しているが、日本人としては知っておくべき問題で、教育が必要と思う。	
	瑞浪では身近でないため「分からない」と答える方が多くあり、差別するような行為や気持ちも少ないのでは、と想像しました。	
	同和という言葉自体が死語になりつつあるように思うのは私だけでしょうか？20代の関心度が高いのには驚きです。	同和問題そのものを知ってもらおうような取り組みが必要では？
	同和問題がどういうものか分からない。	
	報告書と同感。	
	<知識不足>「破戒」を読んだ程度。	
8 アイヌの人々の人権について	瑞浪では身近でないため「分からない」と答える方が多くあり、差別するような行為や気持ちも少ないのでは、と想像しました。	
	昔と違って、今はこだわる人は少ないと思う。	
	報告書と同感。	
	<知識不足>新聞記事「アイヌの人の漁業権」を読んだ程度。	
		偏見をなくすための啓発活動の推進。個々人が正しい知識が持てるような、正確かつ的確な情報提供。

項目	感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
9 外国人の人権について	職務上、外国の人と関わっており偏見は無くなったが、それは個人対個人の関係においてである。自分の地域に住む、知らない外国の人が近くを通っても意に留めることはない。しかし、もし迷惑行為があったら無関心ではいられなくなるし、偏見・差別が生じてしまうと思われる。アンケートの結果から、交流の場が全くないということが明確になっているのではないかと思う。学校・会社・市・地域の協力や連携づくりが必要なのでは？	
	グローバル化に対応できない自分が情けないですね。言葉や慣習の違いはやはりネックになりますね。	偏見をなくすための啓発活動の推進。個々人が正しい知識が持てるような、正確かつ的確な情報提供。
	スーパーへ行くと外国の人を見かけるが、自国の言葉が聞こえてくる。日本語を少しずつでも覚えてはどうか。分からないことは手振り身振りでもいいから聞いたらいいと思う。	
	現在、外国人児童・生徒も市内で増加しています。子どもに対する初期の指導（言語、生活様式等）が重要です。市または東農地区で初期指導をする場所が必要です。	学校教育において、さらに教育の充実を進める必要があります。
	報告書と同感。	言葉の壁が一番大きいと思います。
	生活困窮・就労難、加えて言葉の問題もあり、情報を得られない人も多くいることを、実際に対応をしていて感じる。そうした外国の方の世帯では、子どもたちへの影響も大きく、虐待、問題行動、DVへとつながっていくケースもある。外国の方の人権を守るために細やかなサービスを、と特に感じる。	
	ヘイトスピーチは卑怯な行動だと思う。	
10 犯罪被害者とその家族の人権について	問28 犯罪被害者とその家族の人権尊重のために必要なことについて／犯罪被害者といっても、千差万別で同じ対応は一件もないと思う。まずは近くにいる人は黙ってただ見守る。寄り添っていれば、当事者の思いや何を求めているのか、支援の仕方が具体的に教えてくるのではないか。それを見逃さずにくみ取ることだと思う。当事者によっては、周りの優しさ、慰めなどの配慮さえ苦痛や重荷になってしまうことはないだろうか。そうだとすれば、当事者からの発信を見逃さずに受け止めることが、第1歩となるのではないだろうか。	
	報道のあり方、あらぬ噂等々で、被害者でありながら、まるで加害者のような風潮となるような事態がありますね。残念なことですが。	偏見をなくすための啓発活動の推進。個々人が正しい知識が持てるような、正確かつ的確な情報提供。
	精神的ショックがあるかもしれないが、「人の噂も75日」というように日が経てば噂も消えていくと思う。	
	報告書と同感。	

項目	感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
11 感染症患者 などの人権 について	まさに今ですね。やはり正確な情報、知識が重要でしょうね。	偏見をなくすための啓発活動の推進。個々人が正しい知識が持てるような、正確かつ的確な情報提供。
	国際的にも国内的にも問題である「新型コロナ」。地方自治体の対策が見えない。これはこれから他のウィルスでも起こることは否定できない。正確な情報を発信し、デマを防ぎ、感染者を守る。	絶えず起こりうる危機の管理と、医師会・公的病院との体制の強化。
	知識や理解を十分にすることが大切だと改めて感じました。	
	報告書と同感。	
	感染する病気であれば、宿泊施設は避けたほうがいい。	
12 刑を終えて 出所した人 の人権につ いて	<知識不足>現在猛威をふるっている新型コロナについては、国からの指示があり行動の制限などされているが、それ以外の感染症が何を示しているのか分からない。	
	刑期を終えて出所した人たちが社会に復帰した際に受け入れられないと、再犯の確率が高くなってしまふ。少年院や刑務所は個々に合った更生へのプログラムが作成されていて、学び直しの場合であると思う。偏見や誤解をなくすために、更生してうまく関わりを築いている人たちの成功例をもっとアピールすることが必要ではないか。本人の言葉だけでなく、例えば、就職した先の社長、仲間の声とか、結婚をした配偶者、両親の言葉とか地域の人々との関わり方など。そういう本なども出版されているだろうが、興味関心のない人は手に取らない。	
	知り合いが保護司をされていて、大変だという話をたまに聞きます。誤解や偏見をなくすことは簡単なことではないですね。	偏見をなくすための啓発活動の推進。個々人が正しい知識が持てるような、正確かつ的確な情報提供。
	出所した人を引き受け、責任をもって仕事や住む所の世話をする人がいるとテレビで見たが、出所するときそういう人を紹介してはどうか。	
13 災害時の人 権問題につ いて	報告書と同感。	
	根底にあるのは人と人のつながりだと思ふ。理解し、許し、認め合う、お互い様の精神。今それが育まれるコミュニティ、具体的には町内会組織が弱くなってきている気がする。つながりや絆が希薄になっていることを危惧する。また、アパートの住人は町内会への入会をしないのが実態。隣人も分からない。避難生活の中、町内会の組織力・団結力の強いコミュニティほどトラブルは少ないのではないかと。また、トラブルが発生しても、話し合い等で解消しやすいのではないかと。	いつどこで起きても不思議でない大災害に備える準備、万が一起きてしまった場合の支援体制。やりすぎだと言われるくらいに検討しておいてほしい。

項目		感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
13	災害時の人権問題について	災害は長期になるので、市、県が注意して相談を真剣に受け止め、解決すること。避難所は何か間仕切りをするように考えてほしい。	期限を決めて仮住まいを壊すが、金銭的に出ていけない人がいると思う。他の地区へ行ったら交流ができないので被災時の地区を守ってほしい。
		誰もが被災者になり得るのだが、自分の身に起こらないと、感じにくい人権であると思った。災害についての正しい知識を持つことが大切だと思う。	
		報告書と同感。	
14	性的指向の異なる人（同性愛・両性愛など）の人権について	70歳代の「分からない」が、ほかの世代よりとても高く（P83、P85、P87、P89）、これは、この世代の考えが「理解できない事、ダメな事、おかしい事」という理由なのではないでしょうか？ただ単純に分からないだけなのではないでしょうか？数値の高さにびっくりしました。	
		「みんな違ってみんないい」の精神で。「否定」の言葉を使わず、まずは受容する。「丁寧な言葉使い」など、保・幼・小・中と、長期にわたって連携した取り組みが必要なのでは。どれも一朝一夕に成果が出るものではないし、行政と教育現場、両面からの取り組みが大事だと思う。	
		今は同性結婚（日本は認められている？）も新聞やテレビで見るが、あまり批判したりしないと思う。	
		どこかで関わりたくないと思ってしまう自分があることが、残念ですが事実です。個性として認めてないわけではないですが。	いろんなことに対して法的認知がなされることを望みます。
		報告書と同感。	
15	性自認の異なる人（「からだの性」と「こころの性」が一致しない状態）の人権について	服装で、女性が男性になったり、男性が女性になったりするの、本当の自分になること。自分に合う仕事を見つけること、他人がその人に干渉しすぎないことが大切。	
		「みんな違ってみんないい」の精神で。「否定」の言葉を使わず、まずは受容する。「丁寧な言葉使い」など、保・幼・小・中と、長期にわたって連携した取り組みが必要なのでは。どれも一朝一夕に成果が出るものではないし、行政と教育現場、両面からの取り組みが大事だと思う。	
		どこかで関わりたくないと思ってしまう自分があることが、残念ですが事実です。個性として認めてないわけではないですが。	いろんなことに対して法的認知がなされることを望みます。
		報告書と同感。	

項目	感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
16 人権教育・ 人権啓発の 方法について	問37 市が行っている人権の取り組みについて知っているもの／「広報みずなみ」の啓発記事に効果があるという結果が出ており、今後も継続していく必要があると思われる。	
	人権についての正しい理解ができていないと、人権問題に直面した時に相談するという対処ができないと思う。そういった意味でも人権教育は非常に重要だと感じた。	広報での啓発は非常に有意義であると思う。学齢期からの人権教育がしっかりできていくことで、問題意識が持てる大人が育つと思う。低年齢からわかりやすく、人権に触れられる機会があると良い。
	広報に相談受付の日時が載っているが、字が小さい。もっと太い字で。	
	「ちょっといい話」はとても良い啓発・取り組みだと思います。これからもぜひ続けてください。	
	標語や合言葉はどうでしょう。藤田先生が言われた「思いは見えないけれど思いやりは見える 心は見えないけれど心配りは見える」など。	
	若い世代の「知っているものはない」が50パーセントに近いのは残念ですが、これが現実でしょうね。	インターネットやSNSでの情報発信。
	ねばり強く、広く周知することが大事だと思います。学校教育においても、いじめ問題も含め重要な課題の一つとして取り組んでいるところです。	
	新人の高齢者の就業でいざこざが多い。前職やプライドが邪魔して先輩や新人教育関係者を無視するような事柄が見受けられる。人生をリセットすることや人を思いやる心が持てるような人権の啓発が必要だ。	啓発活動は学校関係も必要だが、事業所や高齢者に対しても必要と思われる。「人権」の看板を掲げることなく自然に理解できるような啓発方法はないものか。
	「みんな違ってみんないい」の精神で。「否定」の言葉を使わず、まずは受容する。「丁寧な言葉使い」など、保・幼・小・中と、長期にわたって連携した取り組みが必要なのでは。どれも一朝一夕に成果が出るものではないし、行政と教育現場、両面からの取り組みが大事だと思う。	
「学習」の割合が高かったです。	岐阜県弁護士会にて、学生でも大人でも学べる法教育の授業があり、子どもには出張授業もあります。人権教育に有益です。ぜひ活用を！	

項目	感想・意見（要旨）	第2次指針に期待すること（要旨）
その他	<p>人権という目に見えない事柄に関する会議や講演会等に参加させてもらう中、これはとても大切な活動だと思うようになりました。特にきっかけとなったのは、昨年度瑞浪市で開催された「LGBT/SOGIを理解し、多様性を認め合う社会を創ろう！」の講演会終了後の出来事です。帰りのエレベーター内で、参加された70歳代ぐらいの方々が口をそろえて「そうはいつでもなあー」と話されたのを聞き、「人の価値観はなかなか変わらないんだ」と思いました。しかし、反対に言えば、変わればそれは新しい価値観になり、しっかりと定着するということです。時代とともに価値観が変わってきたように、今後も変わっていくでしょう。それはこうした小さな活動の積み重ねが少しずつ少しずつ人の心の中に入り、しっかり根付いていくのだと思いました。</p>	
	<p>以前（いつか忘れました）にこのアンケートに答えましたが、設問や内容が全く変わってないように思われます。比較対照するには同じ設問でないといけないでしょうか、少し視点を変えた内容の設問があっても良いのではないのでしょうか？</p>	
	<p>今まで何も考えず過ごしてきたが、こんなに問題があるとは。あまり関心を持っていなかった。</p>	